

高病原性鳥インフルエンザ発生農場 における再発防止の取り組み



県西家畜保健衛生所

齋賀真純

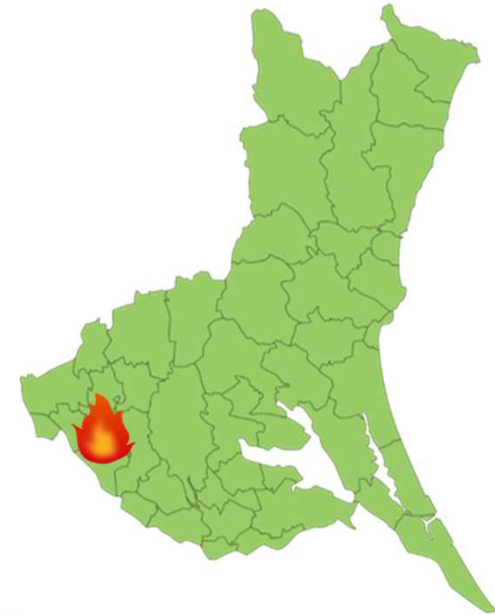
はじめに

2023年2月10日

管内養鶏場で高病原性鳥インフルエンザ発生
飼養鶏約115万羽を殺処分

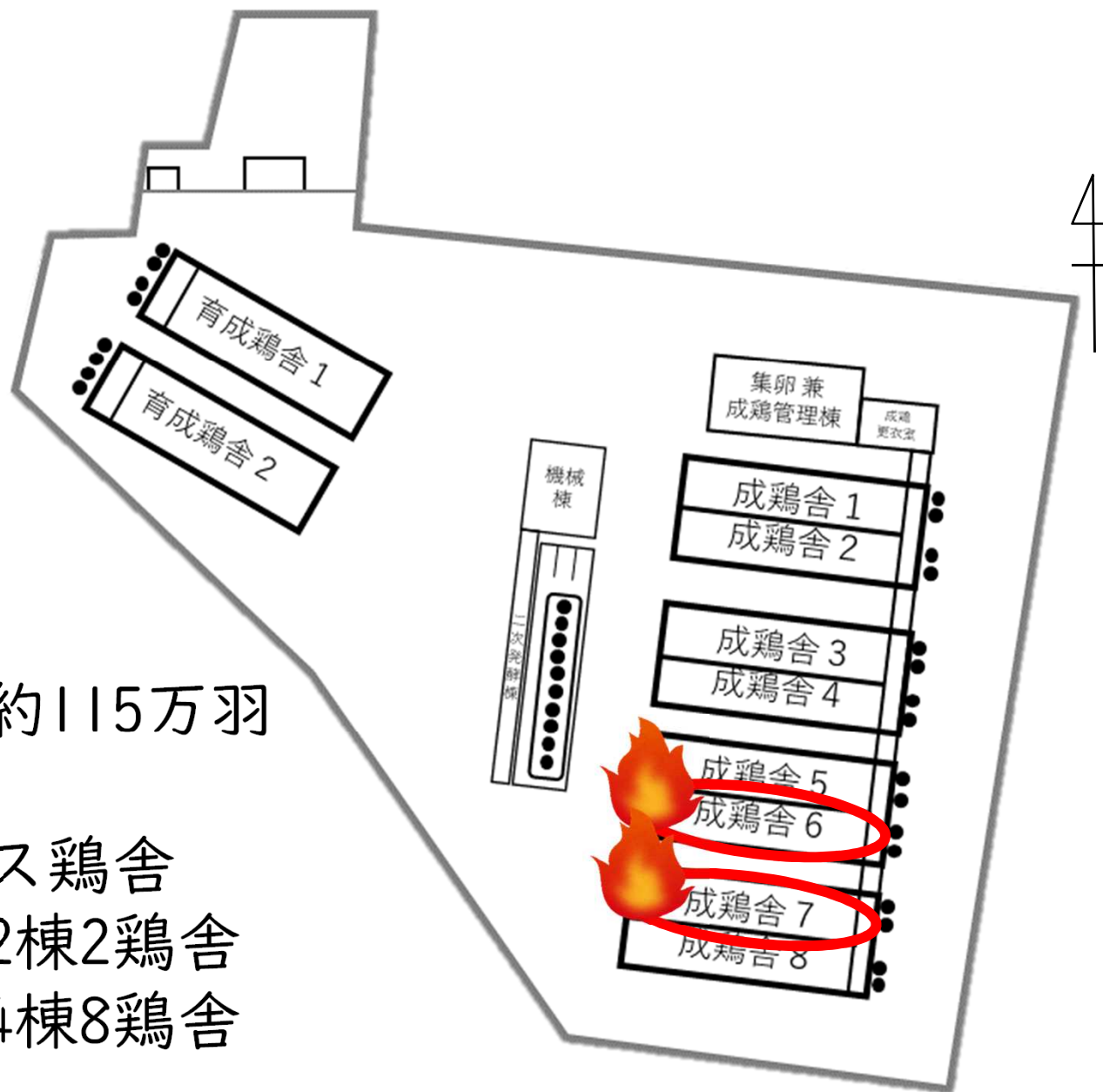
同年6月

経営再開



再開にあたり、**再発防止対策**を実施

農場概要

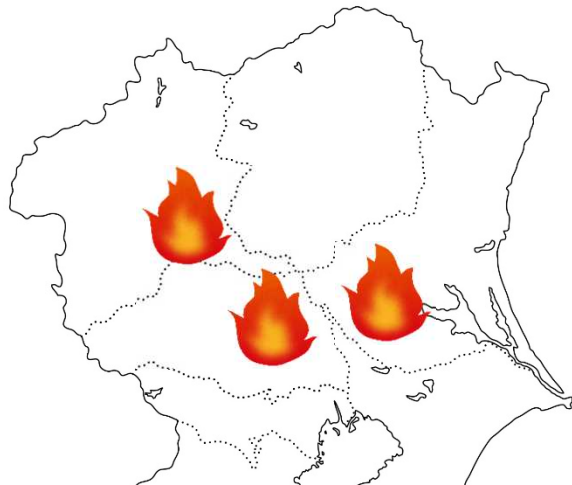


✓ 飼養規模 約115万羽

✓ ウィンドレス鶏舎
育成鶏舎 2棟2鶏舎
成鶏舎 4棟8鶏舎

当時の状況

埼玉・群馬
での発生



強い
危機感

2月3日
隣町での発生
(搬出制限区域
に入る)

毎日
死亡羽数を報告

通報の経緯

発見

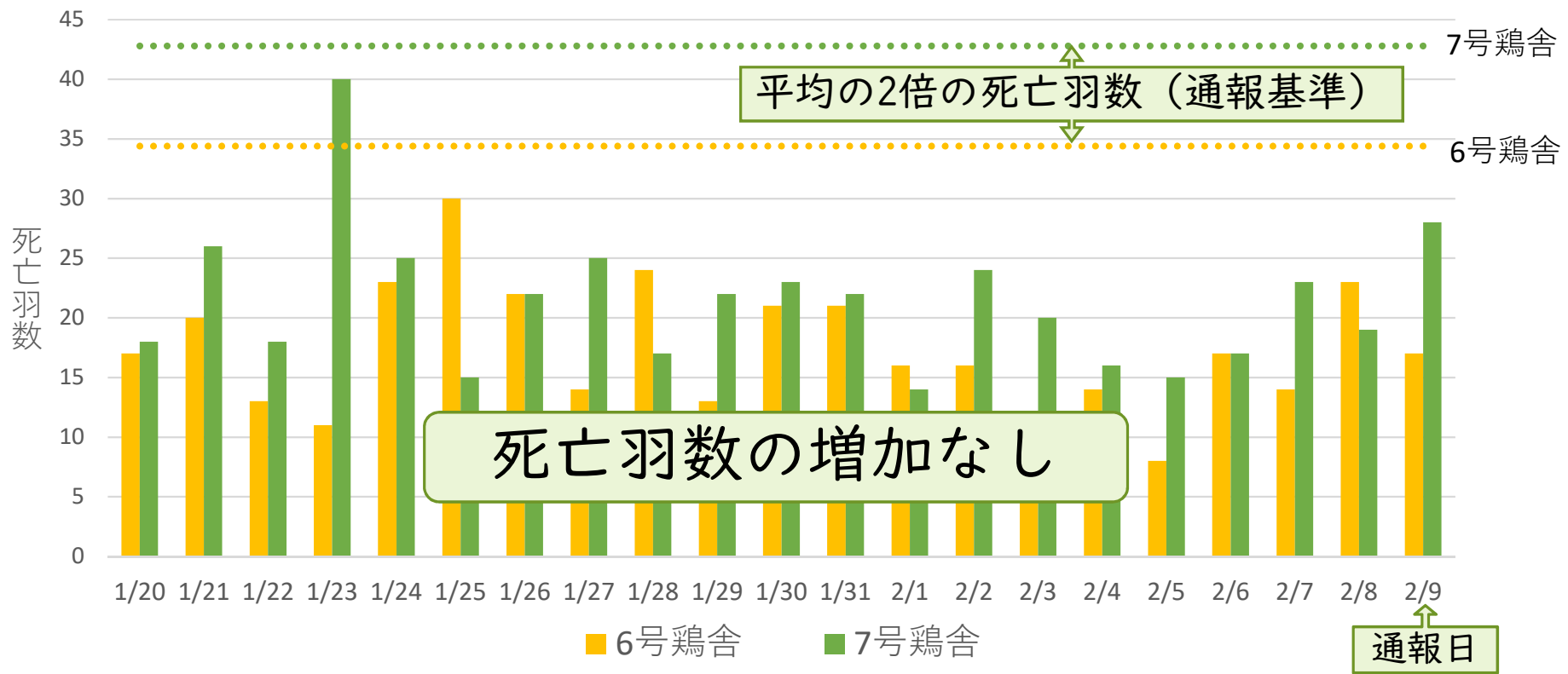
2月9日 成鶏6・7号舎
1ケージ内で22羽中4羽死亡

自主検査

社内規定により
自主検査(簡易検査)を実施

通報

簡易検査陽性
当所に通報



- ✓ まとまった死亡は初発の1ケージのみ
- ✓ 初発ケージ以外の鶏に目立った異状なし

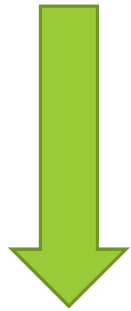


2鶏舎で同時に発生
早期に発見・通報

防疫措置開始から経営再開まで

2月10日 疑似患畜確定 防疫措置開始

2月24日 防疫措置完了



環境検査

モニター鶏検査

飼養衛生管理基準の順守確認

5月12日 経営再開に向けた関係者会議

【農場・市・県の関係者】

6月 1日 飼養衛生管理基準 研修会

6月 9日 導入再開



せっかく経営再開するのに、
また発生するのは困る…





そうだ、

再発防止対策

をしよう

疫学調査結果

- ✓ 更衣・長靴履き替え・手指消毒
- ✓ 車両消毒
- ✓ 野生動物対策 他



飼養衛生管理に問題なし

さらに…

✓ シャワーイン+作業着を頻繁に交換



✓ 畜産関係者は外部施設で入浴+シャワーイン

✓ 出荷作業は自社で実施

✓ 農場敷地外に出荷用プラットフォーム

✓ 野鳥対策にレーザーやドローンを活用



極めて高い衛生レベル

高病原性鳥インフルエンザの発生要因は？

発生は2鶏舎同時

衛生レベルの高さ

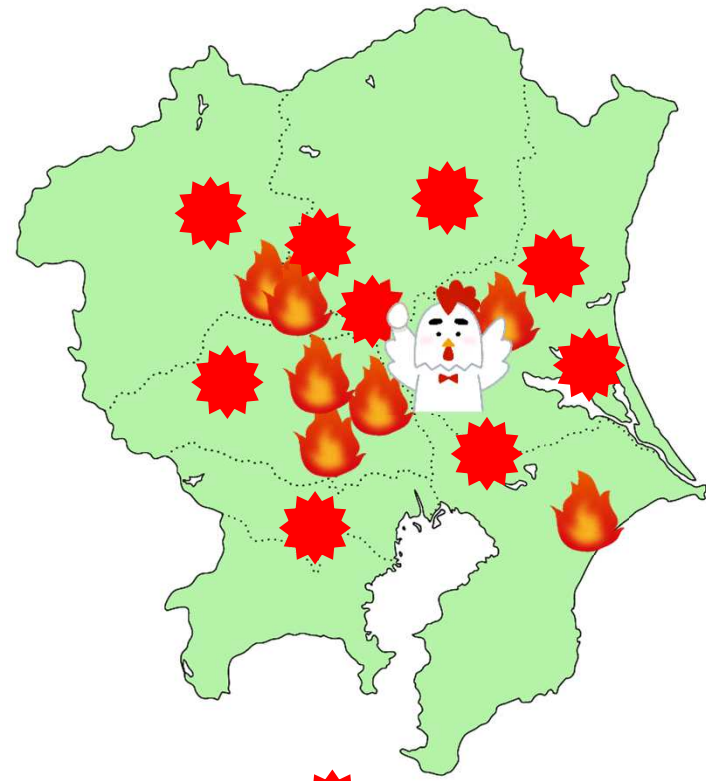
人や野生動物がウイルスを持ち込んだ



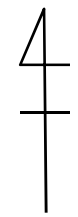
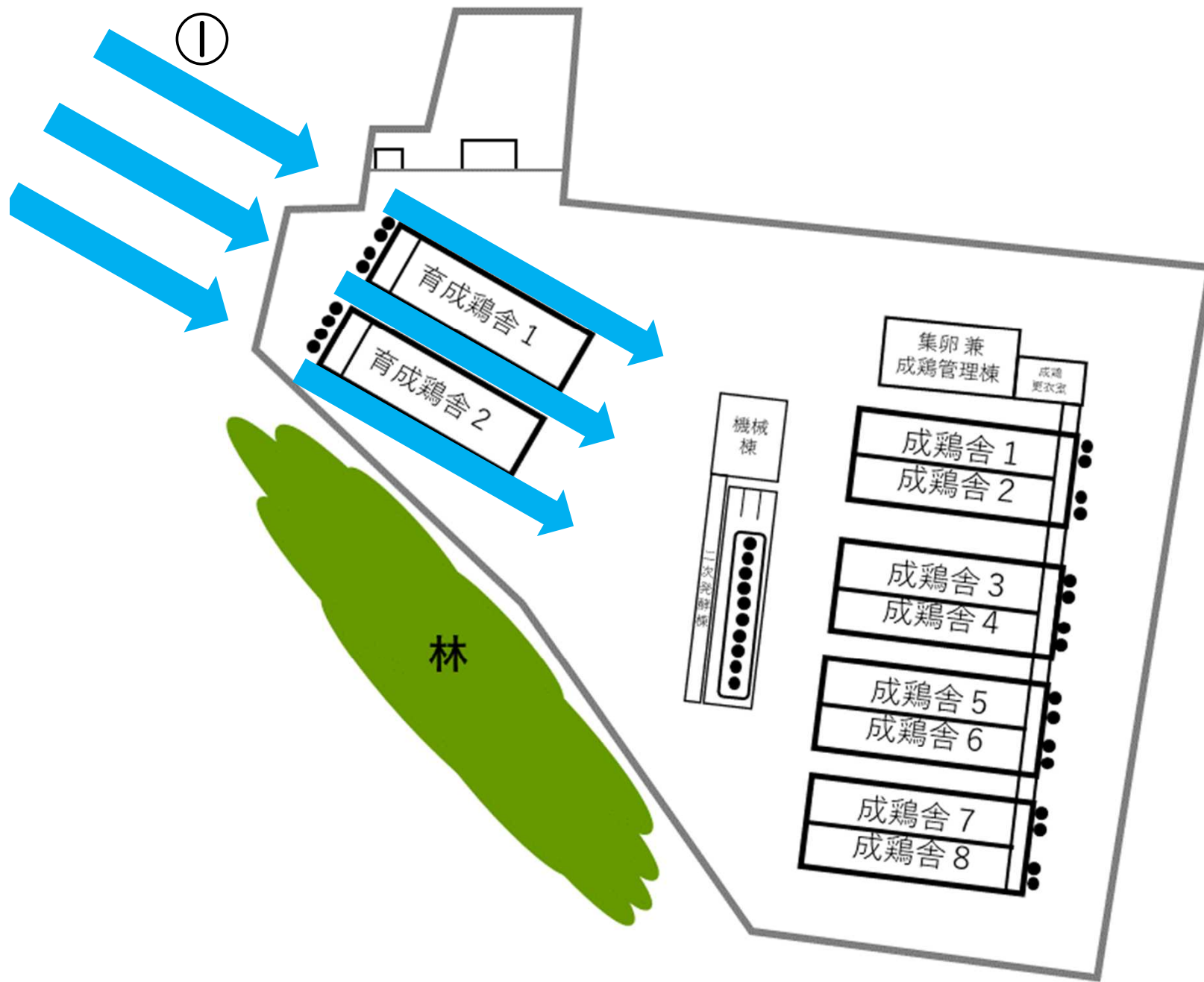
環境中のウイルス量

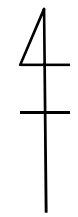
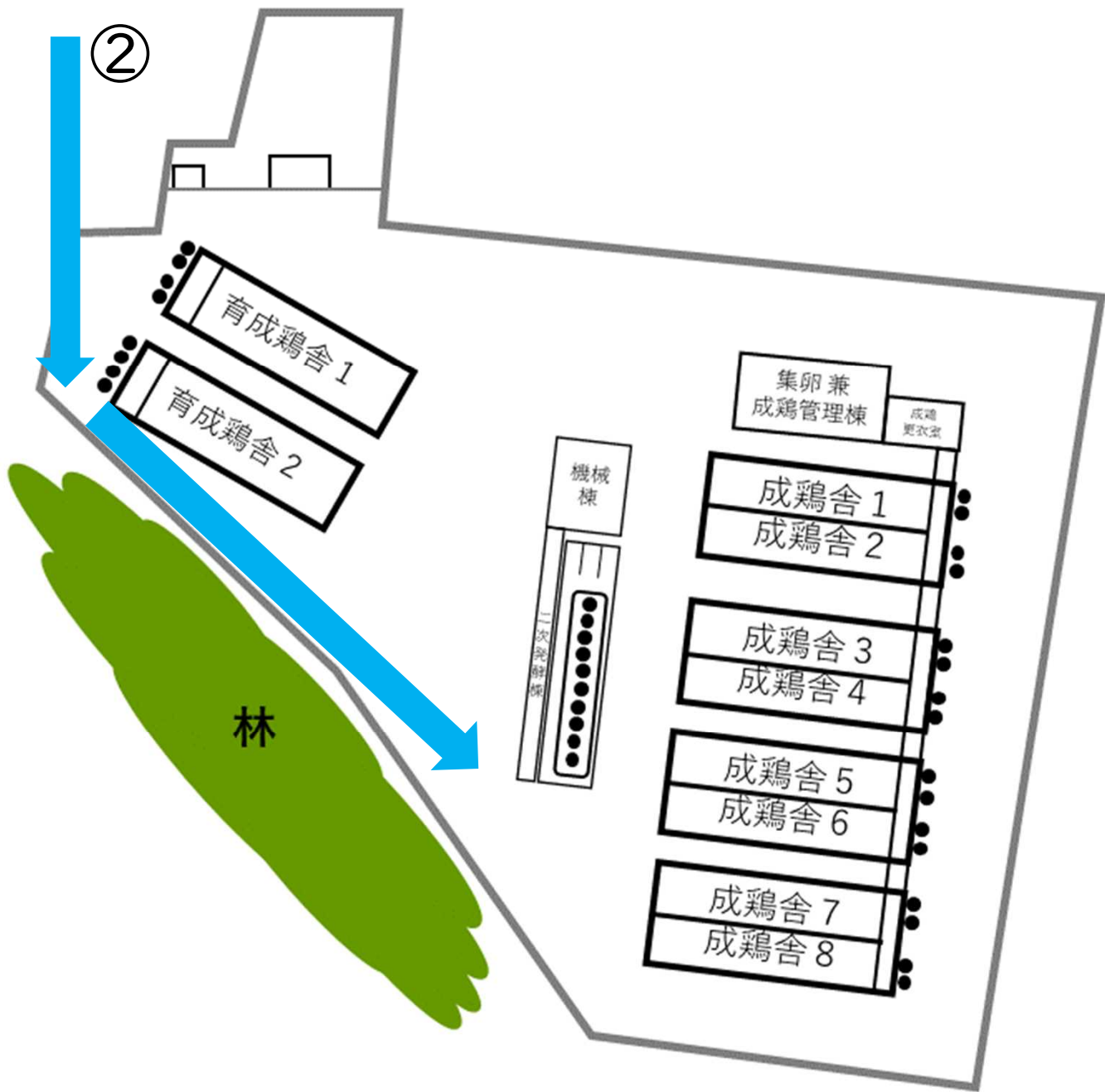
多い

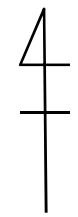
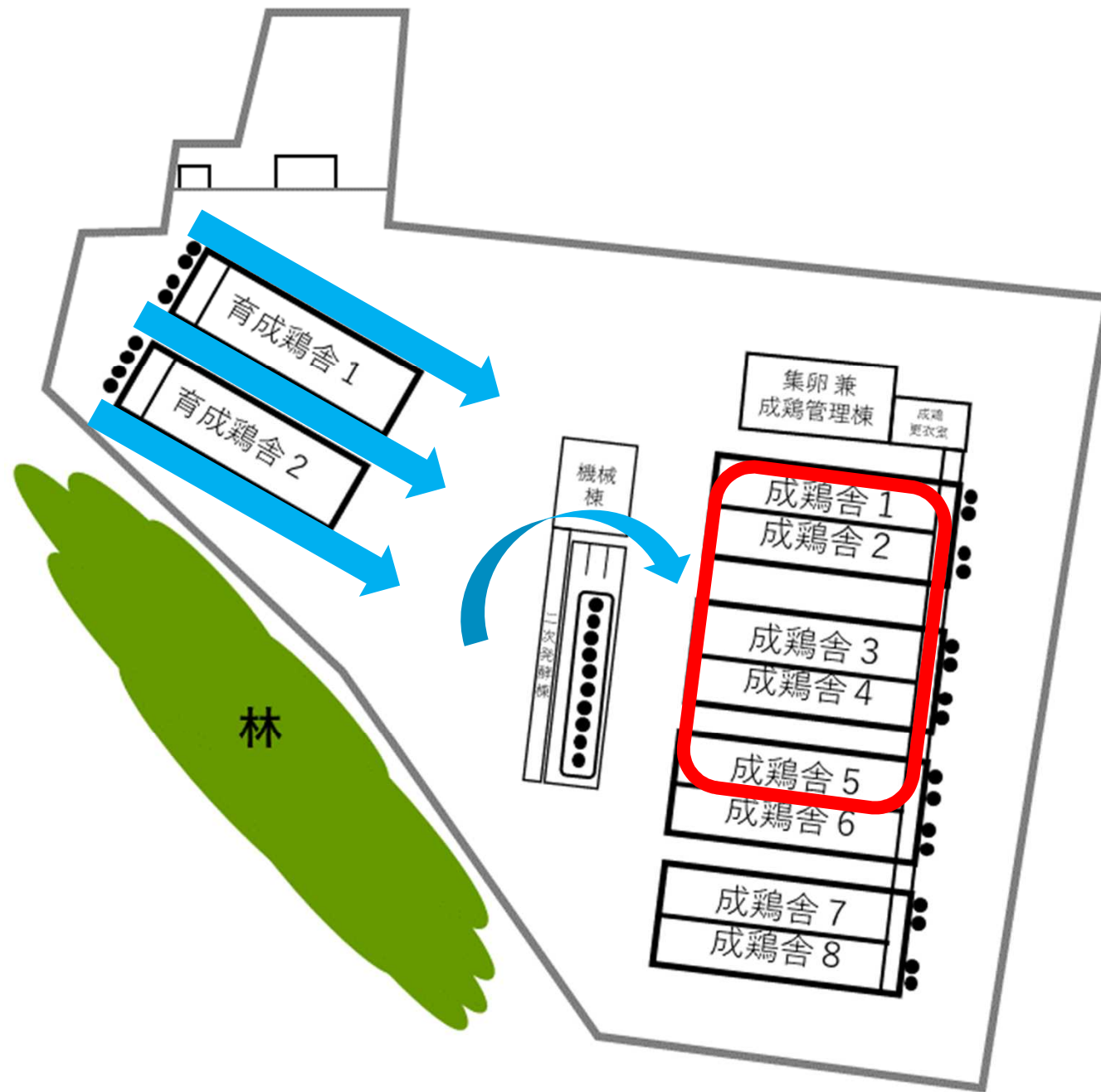
風



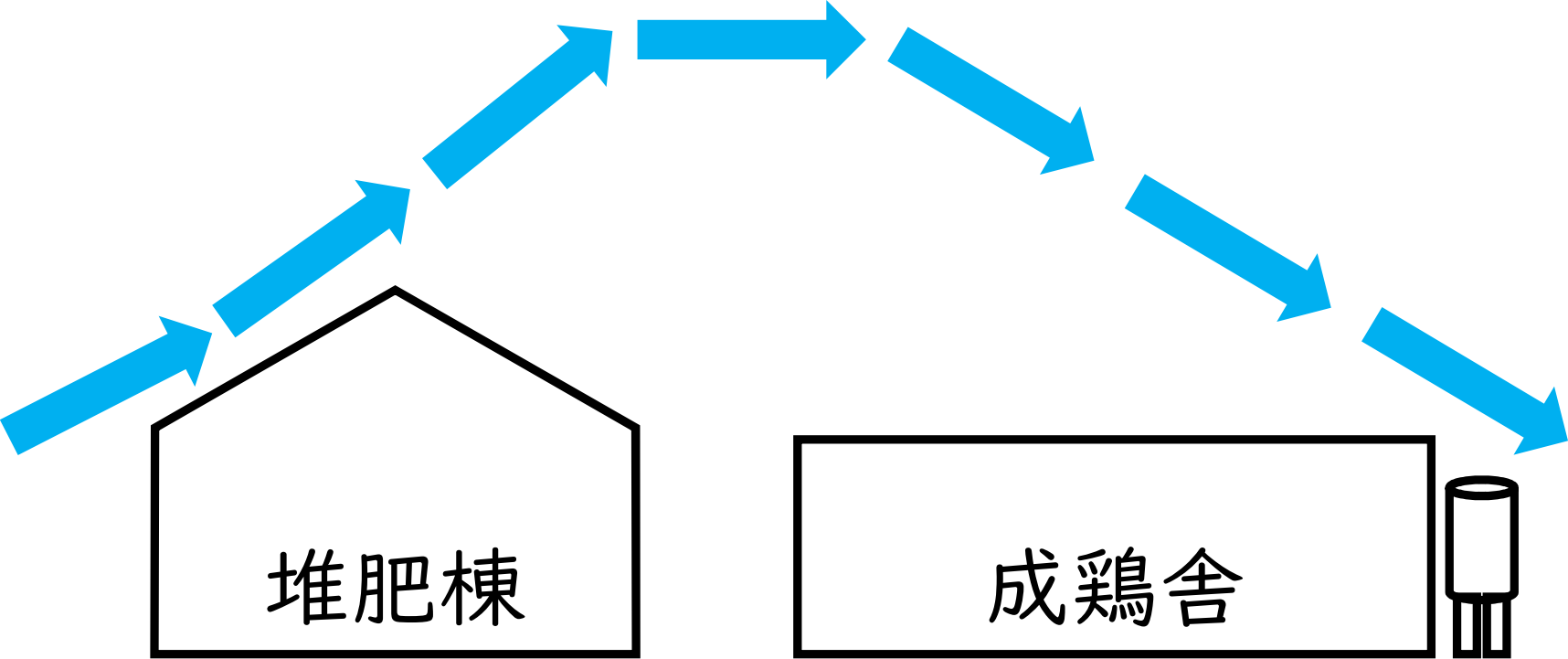
：HPAIウイルス

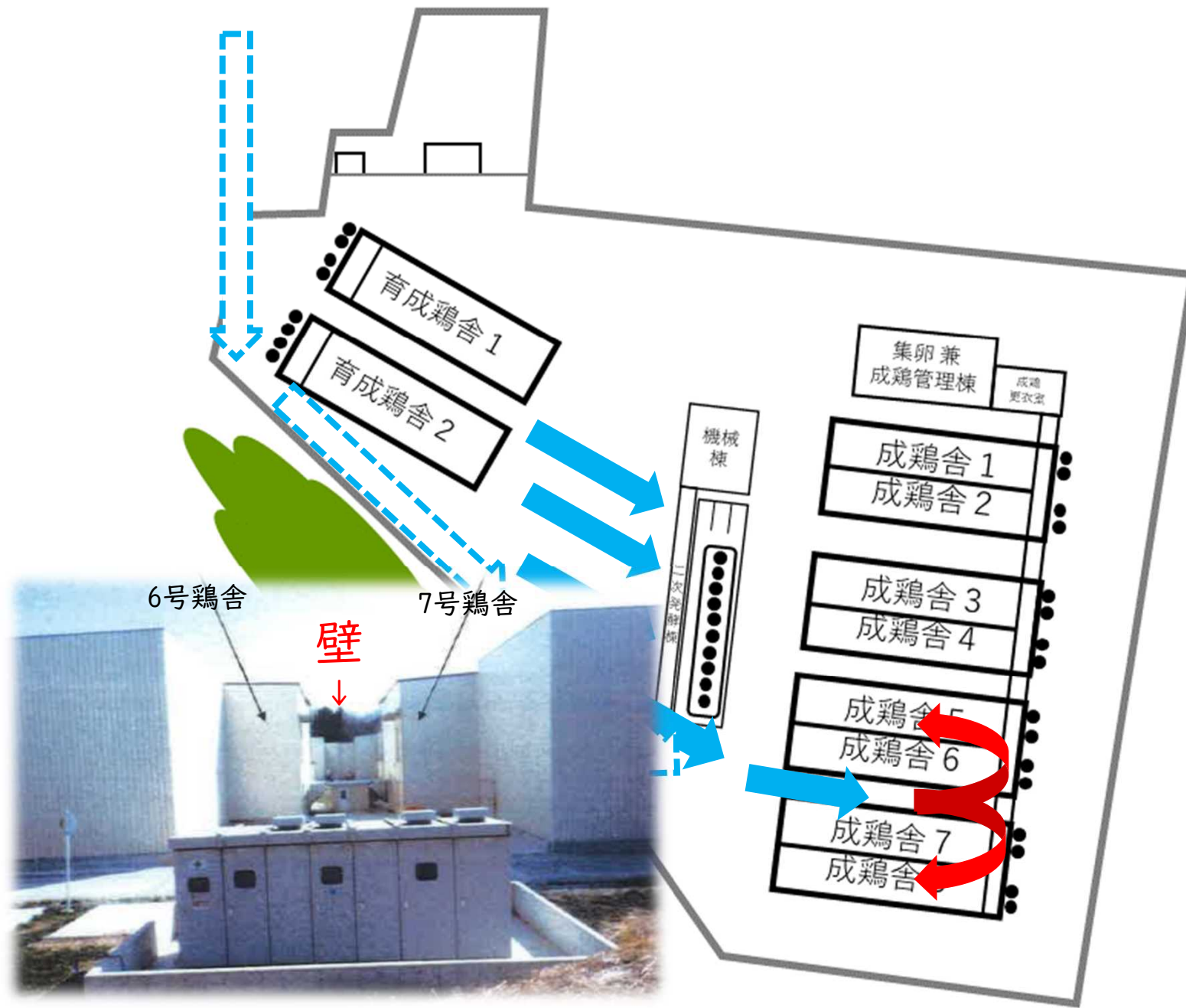






※イメージ図

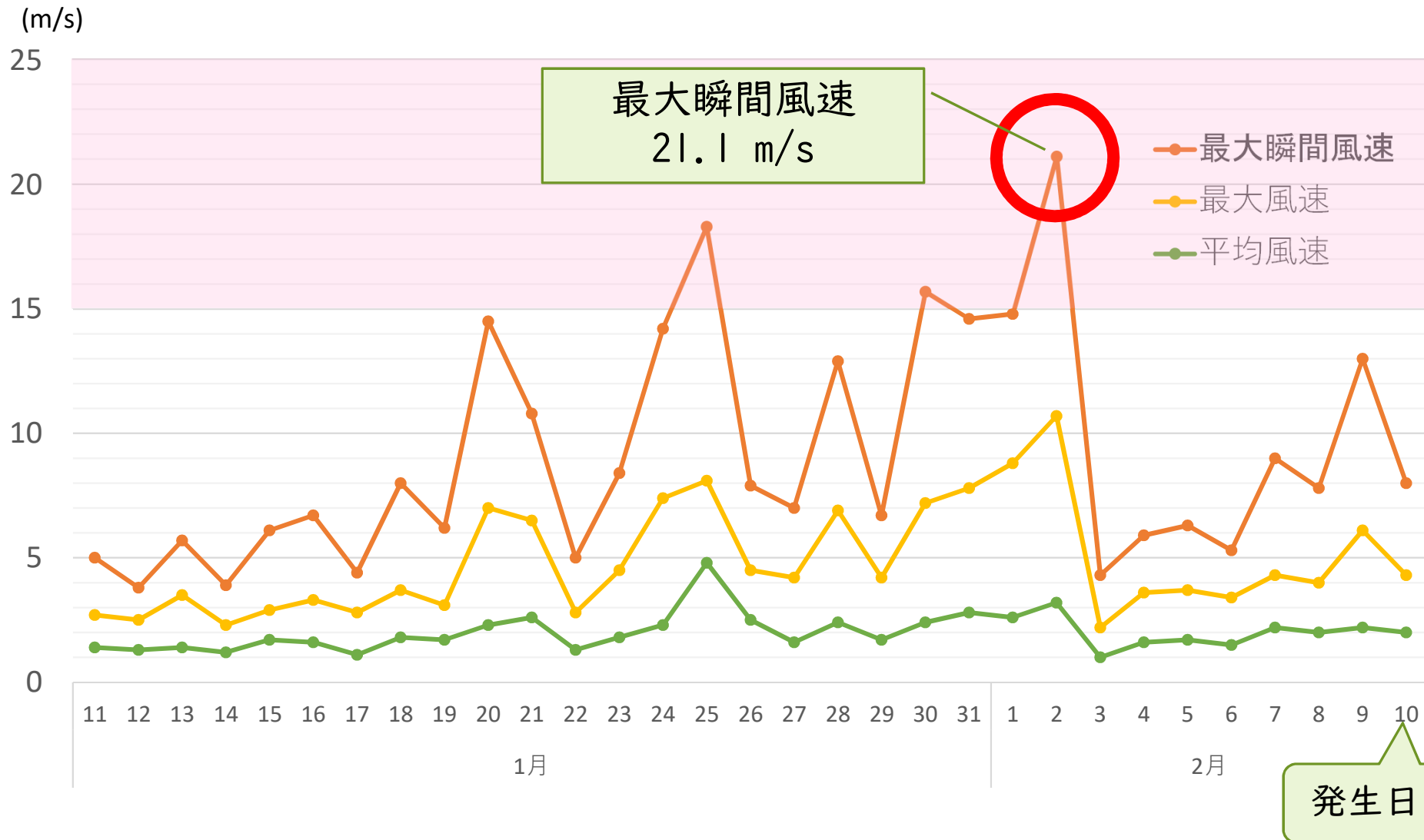


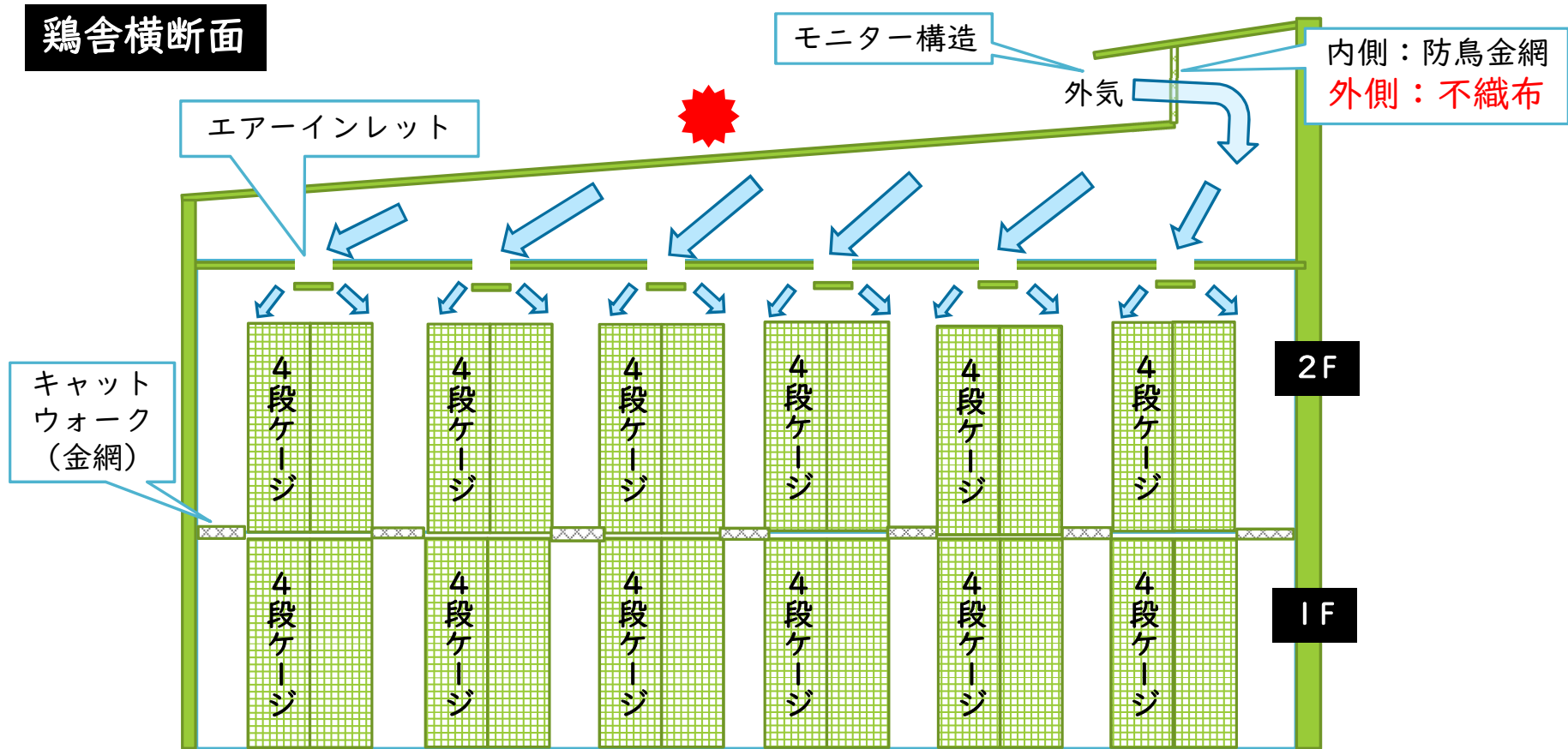



4



発生日の過去1カ月間の風速





強風により防塵不織布が剥がれウイルスが侵入したと推察  : HPAIウイルス

再発防止対策

ウイルスの侵入防止

天井の入気口を塞ぐ

換気方法の変更

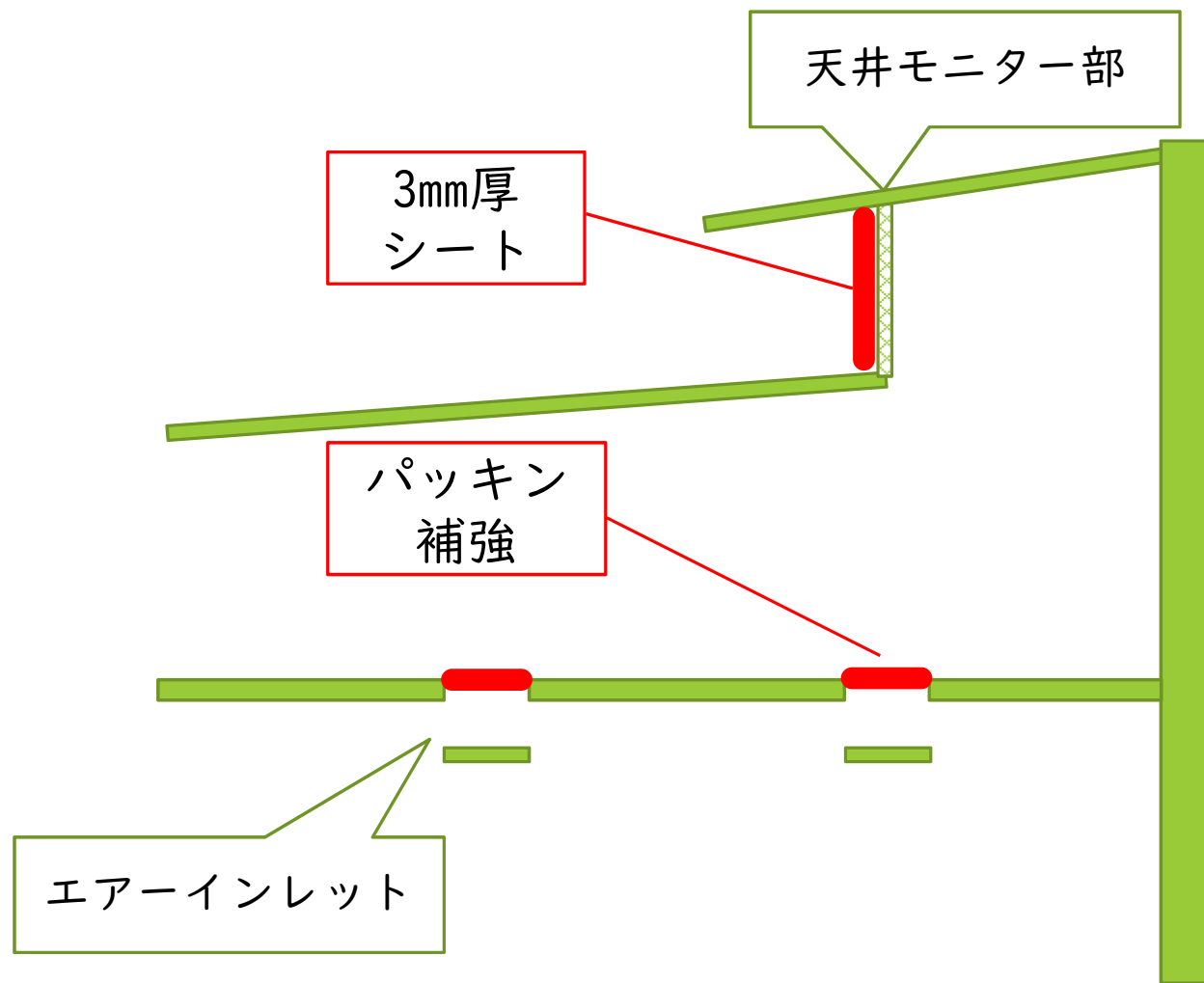
入気部等にネット・フィルターを設置

感染リスクの低減

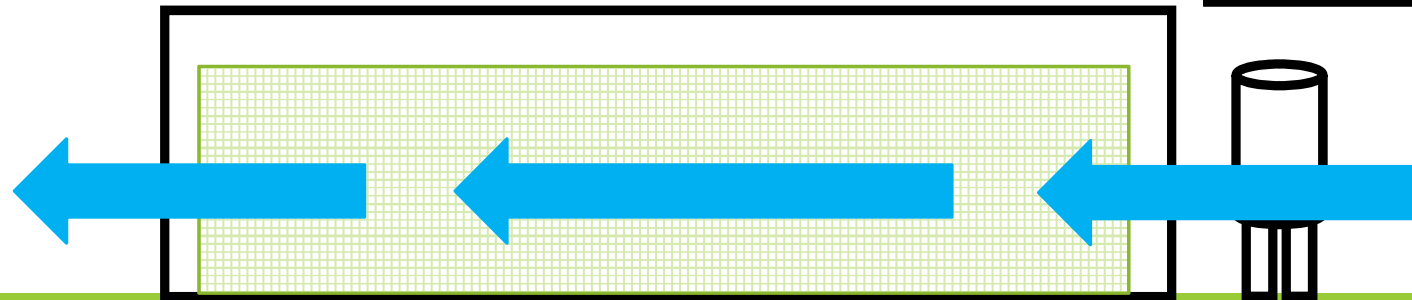
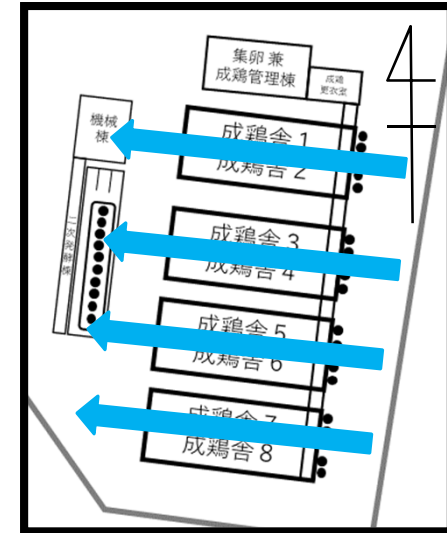
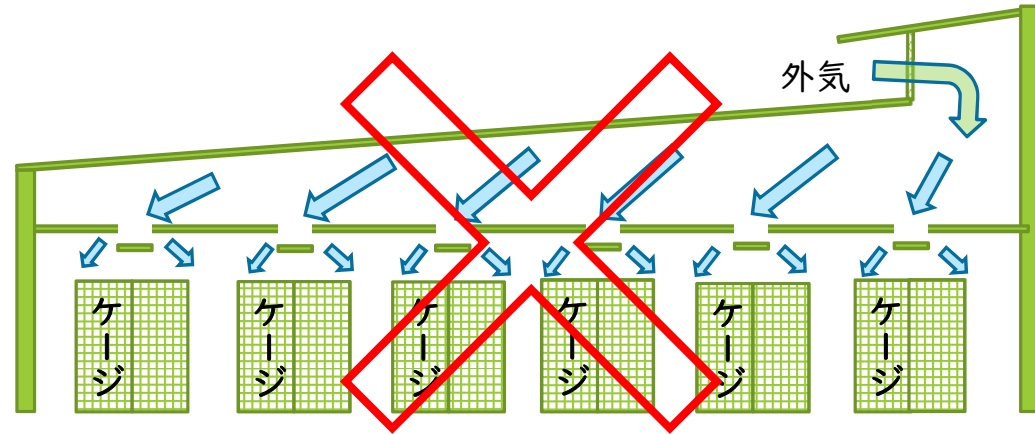
消毒薬細霧装置の設置

2段階のウイルス対策

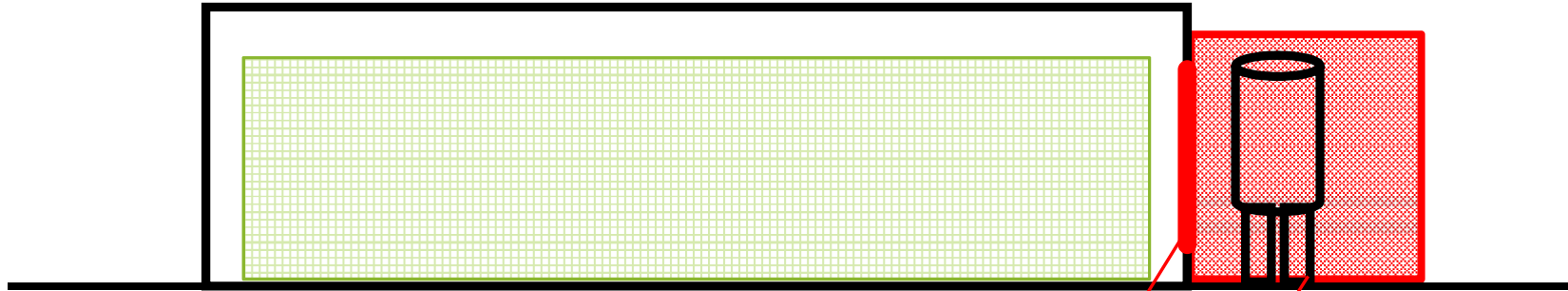
天井の入り口を塞ぐ



換気方法の変更



入気部等にネット・フィルターを設置



防塵フィルター

防風・防塵ネット

入気部等にネット・フィルターを設置



<防塵フィルター>

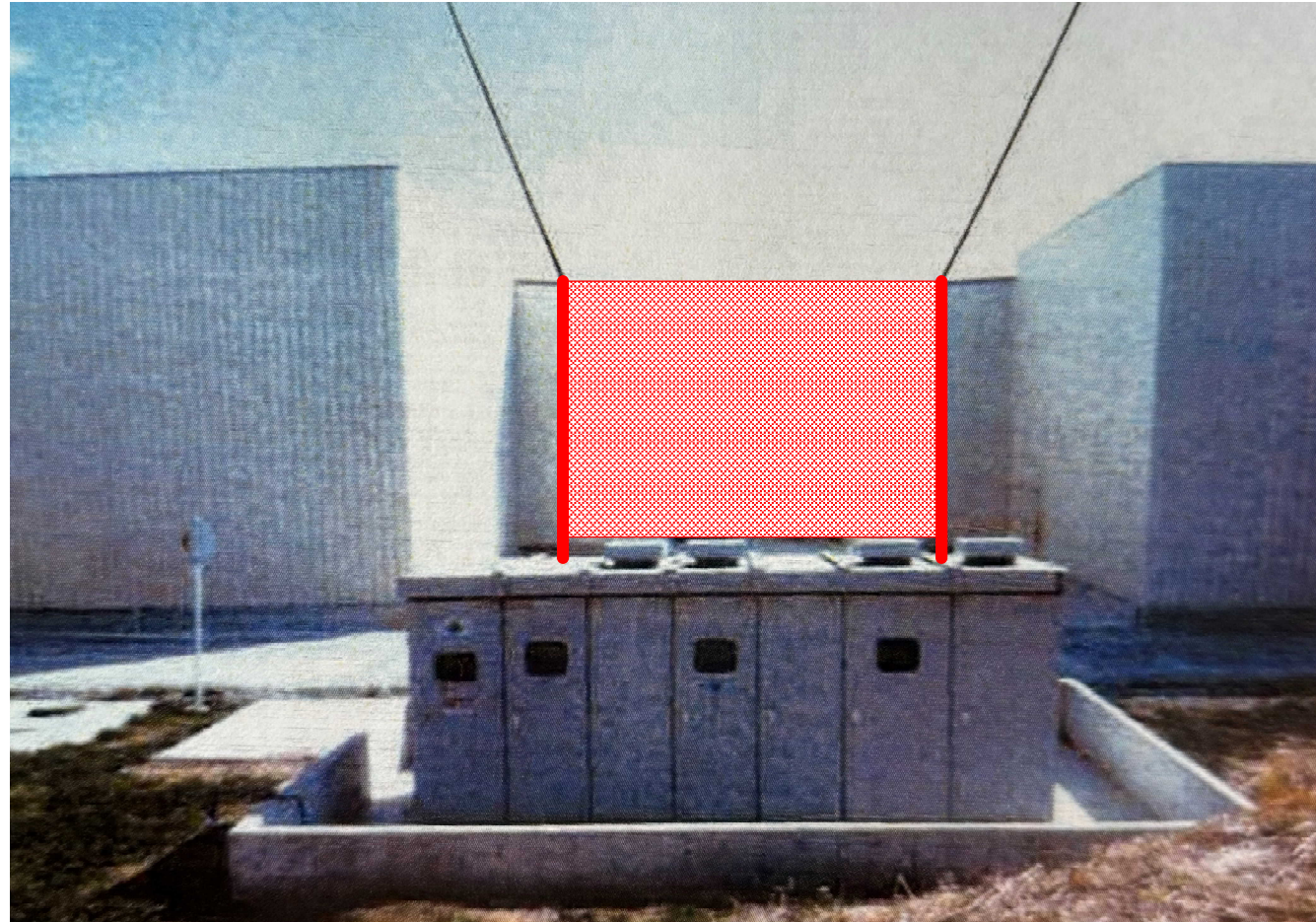


<防風・防塵ネット>

入気部にネット・フィルターを設置

6号鶏舎

7号鶏舎



消毒薬細霧装置の設置



懸念事項

鶏舎内の温度差 ①

- ・ 入気側：常に外の冷たい空気が入る
- ・ 排気側：鶏から産生された熱がたまる

特に温度の低い入気側では…

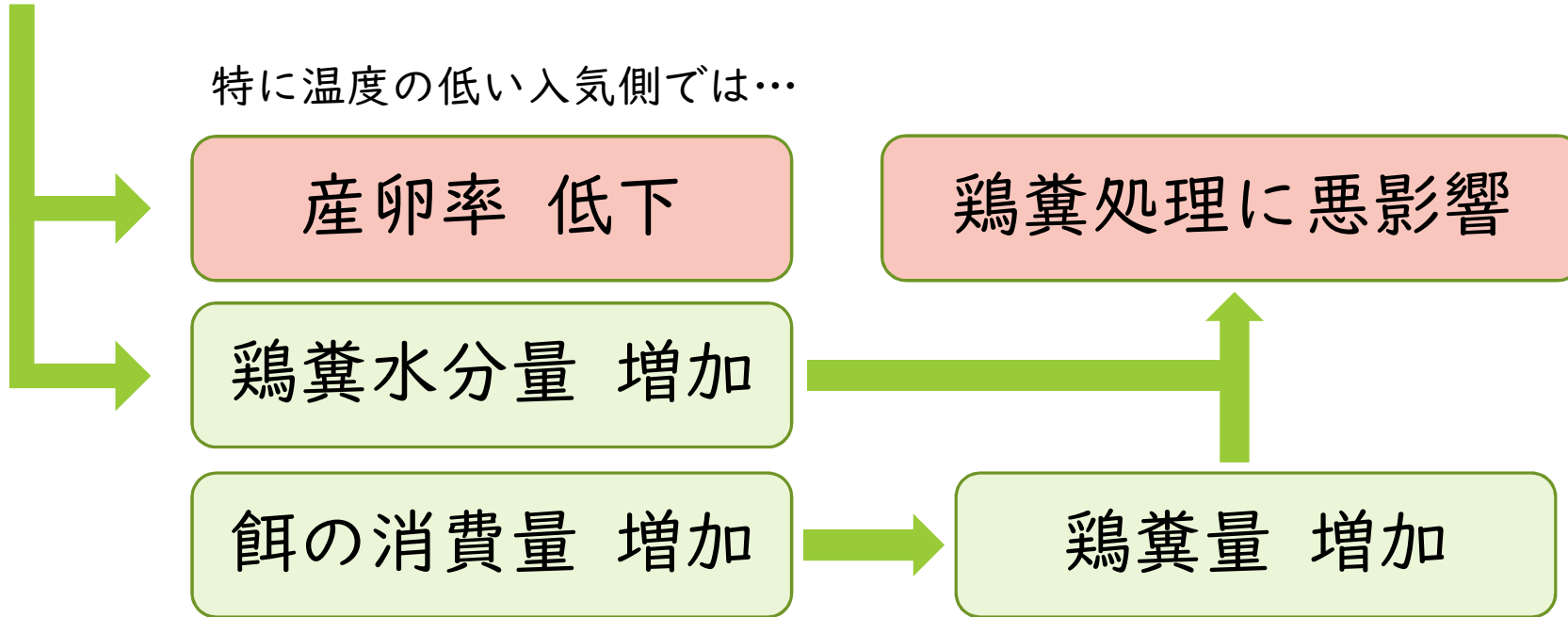
産卵率 低下

鶏糞処理に悪影響

鶏糞水分量 増加

餌の消費量 増加

鶏糞量 増加



今季の現状

鶏舎内の
温度差

- ・ 入気側：7℃ 排気側：29℃
温度差は大きい

餌の消費量

- ・ 消費量は4.5%増加

産卵率低下

- ・ 産卵率低下は認められず



鶏糞処理
への影響

- ・ 水分量と鶏糞量の変化は、
発酵処理可能な範囲内



今季の現状

消毒薬細霧装置の設置

鶏舎内の湿度 **上昇**

結果：11月に熱死が発生



常時の運用は困難

今季の現状

消毒薬細霧装置の設置

今後の方針

HPAI感染リスクの高まった際に実施

常時の運用は困難

まとめ

経営再開

- ・ 衛生レベルの高い農場で発生
- ・ 農場・市・県で連携しながら経営再開

原因分析 対策

- ・ 農場の特性をもとに発生原因を推定
- ・ 自主的に鳥インフルエンザ対策を強化

今後の アプローチ

- ・ 各農場にあった危険因子分析と対策
- ・ 地域の衛生レベルの向上を目指す